

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 1	学校教育目標の設定・共有	
現 状	昨年度の自己評価はB（78.7%）であった。	
評価指標	全教職員が学校教育目標を共通理解し、その達成に向けて努力する。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と生徒との信頼関係確立。 ・規律と秩序の遵守。 ・全ての生徒の希望進路の実現。 	
実際の取り組み状況	「全体方針・ビジョン」及び各分掌の「具体的目標」にしたがって、定期的な検証と改善の計画実施を促した。	
自己評価	B (78.7%)	[反省・意見] ・全体方針を「わかりきったこと」として再確認していない。始業式、後期始業式などで確認する機会を増やすべき。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・ほぼ達成されたと評価してよいと思われるが、全教職員一丸となって頑張ってもらいたい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 新型コロナウイルス対応のため、生徒との人間関係構築がやや苦しかったのではないかとと思われる。次年度に向けて、特に現在の1年生へのケアを大切にしてほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	本校がどのような教育に力を入れていこうとするのかを再確認し、教職員が共有し、一体となって指導を行っていくことが必要である。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 2	組織の充実・校務分掌の明確化	
現 状	昨年度の自己評価はB（75.5%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標や重点目標を達成するため、各分掌の役割や取り組み内容を明確にする。 ・組織的に連携するため、自己の職務の検証と他の分掌への提案を行う。 	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌の円滑な連携。 ・常に改善を念頭にして業務を行う。 	
実際の取り組み状況	各分掌間で協力して業務を行った。	
自己評価	B (74.2%)	[反省・意見] ・約半数の人が業務分掌がかたよっていると感じている。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	B	[意見・提言] ・校務分掌の担当を前年度踏襲や経験年数に従うのではなく、可能な限り未経験者や若手にしてはどうか。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 一人一台のタブレット端末の導入など新時代への対応が求められる中、分掌の枠にとらわれず、情報交換を行い協力し合う風土の醸成が求められる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	1つの業務を1人が担当するのではなく、1つの業務を複数の人が担当する体制を構築したい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A** 達成した ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書

評価項目 3	学年・学級運営の充実	
現 状	昨年度の自己評価はA（89.3%）であった。	
評価指標	学年団は、教育目標や重点目標を把握し、生徒の居場所となる学校や学級づくりに努力している。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学年情報交換会を行う。 ・定期的に学年集会を行う。 ・定期的に大掃除を行い、校内の美化に努めている。 ・2者面談、3者面談を1年にそれぞれ最低1回行う。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	B (83.2%)	[反省・意見] ・新型コロナウイルス感染症による影響で、学年集会があまり行われなかった。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・コロナ禍でも工夫しながら取り組んでほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 新型コロナウイルス対応はまだ続くと思われる。新しい時代の学校へと生まれ変わるチャンスととらえ、オンラインの活用等、新しい取り組みを模索してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	各学年団が会議時間を持てるような時間割の工夫を今後も続けたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 4	教育課程の円滑な推進	
現 状	昨年度の自己評価はA（85.0%）であった。	
評価指標	各コースごとに特色ある教育課程の編成に努めている。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業交換のしやすい時間割を組み、自習を前年より5%減ずる ・クラス分けを工夫し、効果的な時間割編成をする。 ・生徒の現状を考慮し、各コースの見直しを行う。 ・特進系は大学入試共通テストを、総進系は推薦入試を目標とした効果的なカリキュラムが組まれている。 ・中学校は中高一貫教育の効果的なカリキュラムが組まれている。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (86.4%)	[反省・意見] ・新教育課程を見据えた取り組みが必要。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・地道な努力を期待する。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 達成度はわずかに向上しているが、まだまだスピード感に乏しいように見える。次年度以導入される降順次新しい観点別評価に対しては相当の準備が必要である。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的、対話的で深い学び」を促すカリキュラム編成。 	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 5	教科指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価は B (8 2 . 0 %) であった。	
評価指標	生徒の実態を踏まえた学習指導方法の工夫・検証・改善が行われている。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果を年に1回、各科で検討し、その都度改善策を検討する。 ・英検、漢検の目標合格率を定めてクリアする。 ・計画的に宿題・課題を出し、家庭学習の習慣が定着するように工夫する。 ・授業改善、アクティブラーニングの積極的導入。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が 8 5 % 以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (89.9%)	[反省・意見] ・各教員が I C T を活用した授業改善の研修会に積極的に参加した。
評価基準	A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持にとどまった D : 現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・ポイントがアップしており、努力が認められる。
評価基準	A : 達成したと認められる B : ほぼ達成したと認められる C : 現状維持であると認められる D : 現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 授業に対する教師の熱意に関して生徒の評価は高い。教師の I C T 活用の取り組みへの意識も高まったように思える。とはいえ、実際の活用についてまだ一部の教師にとどまっている。次年度以降の活用度のアップに期待したい。
評価基準	A : 達成したと認められる B : ほぼ達成したと認められる C : 現状維持であると認められる D : 現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	授業改善のさらなる推進。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が 8 5 % 以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が 6 0 % 以上、8 5 % 未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が 4 0 % 以上、6 0 % 未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が 4 0 % 未満

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 6	生徒指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はA（85.7%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が共通理解のもとに統一的な生徒指導を行っている。 ・情報交換が常になされ、全教職員が問題を共有している。 	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数1日10以下、整容違反0。 ・挨拶指導、入室指導の徹底。 ・いじめ早期発見、早期指導、早期解決。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (87.6%)	[反省・意見] ・「いじめ」防止対策について早期かつ組織的に対応できた。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・生徒が安心して学校生活を送れるよう取り組んでほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] いじめ等に関しては問題なく対応できていると思われる。新型コロナウイルスへの対応が続いているので、今まで以上に生徒との人間関係をしっかり構築することを意識してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	素早く、きめ細かい対応を心がけたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 7	進路指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（78.6%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導を向上させるため、朝学習や家庭学習の習慣の定着をはかる。 ・放課後講習を実施し、模試の分析などによって現役合格率を上げる。 	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の大学進学満足度80%以上。 ・卒業生の専門学校進学満足度80%以上。 ・卒業生の就職満足度80%以上。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (85.7%)	[反省・意見] ・卒業生の満足度（80%以上）は高かった。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] ・生徒が満足して卒業することが大事だと思われまます。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 新型コロナ禍の中、進路に対する卒業生の満足度が高いことは評価できる。大学進学に関しては、次年度以降、新学習指導要領を意識した入試の出題傾向の変化や新型コロナウイルスの影響による志望者動向の変化などが予想される。積極的な情報収集と対策を期待したい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	大学入試共通テストの問題分析と対策	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した** ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 8	家庭・地域との連携の推進	
現 状	昨年度の自己評価はA（86.7%）であった。	
評価指標	日頃から保護者との連携を強め、学年通信、ホームページ等により、適切な学校の情報を提供する。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信を年間10回以上発行する。 ・近隣中学校へ年2回以上訪問する。 ・文化祭の参観数が前回を超える。 ・オープンスクールの参加者数が前回を超える。 ・PTA総会の出席者数を把握する。 ・学校ホームページを充実させるとともに、印刷物等で学校情報を公開する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (88.1%)	[反省・意見] ・新型コロナウイルス感染症により、訪問回数が減り、各行事の参加者数も減ったが、工夫しながら学校の情報を提供できた。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・家庭・地域との連携はとても重要である。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 新型コロナウイルス禍の中でも達成度が高いことは、学校としての工夫ができた証左である。各保護者へのオンラインでの情報提供やオンライン面談で満足度を高めている学校もかなり増えてきている。ぜひこういったオンライン環境の活用を検討してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	オープンスクールの内容、スケジュールの企画再検討。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 9	省エネルギーの実行	
現 状	昨年度の自己評価はA（95.0%）であった。	
評価指標	光熱水費や用紙等の無駄を省き、省エネやリサイクルに取り組んでいる。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費、暖房費を前年より減ずる。 ・分別回収を徹底する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。 事務室に電力消費の表を掲示し「見える化」をはかった。	
自己評価	A (100%)	[反省・意見] ・各家庭でも常識になりつつあるためか、非常に好スコアである。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] ・高水準で維持できている。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 100%という高い達成度は素晴らしい。今後とも気を緩めることなく省エネやリサイクルに取り組んでほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	省エネの徹底。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 2 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 10	特別指導の充実 (中学校)	
現 状	昨年度の自己評価はA (97.3%)であった。	
評価指標	様々な体験活動や特色ある活動等が活発に行われている。	
達成目標 (数値目標)	・体験活動・職場訪問・ボランティア活動を各定期考査終了直後に実施する。 ・講演会を随時催す。 以上の項目につき、ア、イ (下記自己評価の基準を参照) の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (89.1%)	〔反省・意見〕 ・新型コロナウイルス感染症により、中止したり、規模を縮小して実施した活動もあったが、その割には好スコアである。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	〔意見・提言〕 ・コロナ禍ではあるが、引き続き頑張ってもらいたい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	〔意見・提言〕 新型コロナウイルスの影響で満足に取り組めなかった活動も多かった中、昨年度より高い達成度は評価できる。次年度は新型コロナウイルスと共存が前提となる中、新たな特別指導のあり方を打ち出してくれることを期待したい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	コロナ禍の中で、置かれた状況で工夫しながら家庭と連携して、取り組んでいきたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

- ・自己評価は全教職員による。
- ・学校関係者評価は、PTA役員(保護者)、学校評議員、学識経験者等、本校関係者による。
- ・第三者評価は、教育コンサルタント 大西 貞憲 氏による。